

第一の逸話

これは、アッラーの御名である「聖なる御方」の諸逸話の一つである。

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

〔またわれは大地を打ち広げた。何と見事に広げたことよ。〕（撒き散らすもの章48節）

この尊いアーヤの諸逸話の一つと、最も偉大な御名であり、またかれの6つの御光の一つである「聖なる御方」というアッラーの御名の諸顕現の一つが私に現れた。それはちょうど、祝福されたシャアバーン月の終わりごろに「アスキシャハル(トルコの町)」刑務所を出るときだった。私は神の存在を自覚し、また私のために主の唯一性が覆いを取って明白になったのである。

私にはこの宇宙と地球が、停止することのない巨大な工場に見える。それは広大な宿か、止まることなく人で満員になっては空になる迎賓館に似ている。ただ、これほどに広くても訪問者の数が多くても、結局は過ぎ去ってゆき、残り屑と重過ぎる荷物でいっぱいになる。そしてすべてが汚染に晒され、その中で生活の手段は狭められる。もしも力による浄化作用と秩序がそこで常に行わなければ、溜まった汚れは人間の首を絞め、生活を維持できなくなるのである。

しかし私たちはこの偉大な宇宙という工場と地球という迎賓館に、まったくと言ってよいほど廃棄物による影響を見つけることができない。またこれらのどの場所にも、不利益や不必要な物体または無駄に放棄されたものは存在しない。もしこのようなものが現れても、変化させるための機械にすぐに放りこまれ、清潔な物質に変えられるのである。

この停止することのない事象は、この工場を監督している存在へ導いてくれる。その存在は、工場を多大な配慮と練達さで監視しているのである。そしてその持ち主は、広大な工場にありがちなゴミや残り屑が見えないように—その場所の大きさにも拘らず—常に浄化を行い、秩序立てし、装飾することを命じている。つまり工場がどんなに大きくて広くても、常に清潔を心がけることと、浄化作用に対する配慮は継続しているのである。なぜなら一人の人間が一ヶ月に渡り風呂に入らず、部屋の掃除をしなかったならば、生きることの苦痛を感じるはずだからである。では、偉大な世界の宮殿の清潔さについてはどうだろうか？！

それゆえ、この驚異的な世界の宮殿の中にある清らかさと純粹さと目に見える壮麗さは、継続的かつ叡智ある浄化作用と、細かな浄化の存在から発生している他に理由はない。もしこの清潔さに対する停止することのない監督と、清らかさに対する間断のない配慮が無かったならば、一年で一伝染病に汚染された空気の中にある—地上に存在する数十万にのぼる生物達が息を詰ませたことだろう。また膨張した宇宙の各方向の中にある諸星や死

と無に瀕している物事に対するかの細やかな監察と素晴らしい心配りが無かったならば、それらが壊れて宇宙に散らばった破片が私たちの頭と他の動物達の頭を砕くどころか、現世に存在するすべての頭を破壊したことだろう！また私たちの上から無数の山ほどの大きさの塊が落ちてきて、私たちは現世という住処からの逃避を余儀なくされたことだろう！しかしいくつかの流星物質を除いて、実際には宇宙空間から一散らばりの結果として一それらが降下してきたことはなく、人間に当たったこともない。それどころか思慮深い人々にとってこの事実は戒めなのである！地上における停止することのない浄化作用と継続的な清浄化がなかったならば、数十万にのぼる生物達に起こる死と生の結果である、壊れた破片、ゴミ、死体は、大地と海を埋め尽くしてしまっただろう。また汚れは、感情を持つすべてのものが醜い地上を見ることから逃げ出す程度にまで達するどころか、醜い地上は彼らを汚れからの逃避、死や無へと導くのである。それに対する愛については言うまでもない。

確かに。鳥がいつも簡単に翼をきれいにし、小説家が本のページを簡単かつ完璧に消すように一宇宙空間にいる天の鳥たちと共に一空飛ぶこの地球の翼も、この偉大な本のページ—私は宇宙を指している—も、かの方法できれいにされ、浄化され、装飾される。それどころか、この地球の表面の浄化作用、秩序立て、装飾といった完璧と言える精巧さは、自分たちの信仰で来世の美しさを見ない人たちにこの現世的世界の美しさと清潔さを熱望させるものである。しかしそれ以上に彼らは、現世を崇拜しようとする勢いである！

それゆえ、この超越的宇宙の宮殿と、この巨大な宇宙の工場は、それらに現れたアッラーの御名である「聖なる御方」の顕現という恩恵に確かに与ったのである。清浄化と浄化運動という特別かつ神聖な命令が発せられるとき、凶暴で巨大な海洋生物や驚だけに浄化役の義務が託さるのではなく、さまざまな虫や、亡骸に集まっては这个世界にいるような遺体の処置をする公の保健担当官たちの仕事を行う蟻もその命令に従うのである。また血中を流れる赤血球と白血球も同じく命令に従って、呼吸が血液を浄化するように、体の細胞を浄化をする。また繊細なまつげさえもこの命令に呼応し、継続的に瞳を浄化するし、蠅も命令に従って、いつも羽づくろいをしている。

今までに述べた物体たちが浄化という、かの神聖な命令に従うように、強風と雨で重みを持った雲もこれに従う。前者は地表をゴミからきれいにし、後者は地表の緑に清浄な水を撒き、埃や土を落ち着かせる。そして美しい輝きが空に戻り純粹になり光るために雲は急速にまた法則通り去っていくのである。

諸星、諸要素、諸金属、さまざまな種類と容姿を持つ植物もかの浄化の命令に従っているし、すべての原子もこれに従っている。原子が清浄になり純粹になるために行う変身は、

理性あるものたちを当惑させるほどである。そのため原子は意味なく隅に集まることも、煩雑することもないどころか、汚れた際はすぐに浄化され、聡明な力によって最も清く、輝く純粋な場所を掴み取る。また最も美しく清く、やさしい姿を掴み取る。

このようにこの浄化運動は、一つの動きであり、最も偉大な「聖なる御方」という名の数ある顕現のうちの一つであるという真実で表される。その最も偉大な顕現は、宇宙の最も偉大な現象やその広い部分でも見られるゆえ、その顕現は主の存在と美名とともに神の唯一性を燃える太陽のごとく表す。そして瞳にそれをはっきりと見せ付けるのである。

「光の書簡」のほとんどの部で、以下の事柄が説得力ある根拠によって証明されている：裁定者と賢人という名の顕現の一つである調整と秩序の動き。公正と公正者という名の顕現の一つである錘と秤の動き。美と寛大さという名の顕現の一つである装飾と心づくしの動き。慈悲深い主という名の顕現の一つである教育と恩恵を与えることの動き。それは一つの動きであり、一つの真実である。それらは宇宙の各地平線上で鮮明に確認されているのである。そのためそれら一つ一つが、唯一無二なる御一人が存在する必要性を指しており、はっきりとその唯一性を解明している。

同じように、「聖なる御方」の名に属する諸顕現の一つである浄化作用は、太陽のように明快なかの必須の存在を示している。そして白昼のようにはっきりしているその唯一性を明らかにしている。

以前に述べた秩序正しさ、評価、装飾、浄化作用といった聡明な動きも、それらの種類の統一性、それらが宇宙の各部に表れていることで唯一で御一人の創造主がいることを明らかにする。またほとんどのアッラーの美名どころか幾千のすべての名称やアッラーの美名に最も偉大な顕現が、宇宙に数多くある中の、このような最も広い現象に属しているのである。そのため、唯一なる御方のかの顕現は、その動きと広さに相応しい明快さを出現させるのである。

確かに。法則、規則、すべてを美しくし装飾する包括的な配慮、すべての物体に歓喜と幸福をもたらし、止まることなく賞賛する状態をもたらす壮大な慈悲、命を持つすべてのものが生活し、その甘美さを楽しむ共通の糧、すべてのものとはほかのものを関連付ける命と誕生。これら恒久的な叡智は、存在するすべてのものから物体に益を享受させるが、その姿はあたかもそれがその物体の持ち主であるかのようである。

直感的に証明され、統一性を帯び、宇宙の顔が輝きながら昇るようにさせ、また吉報と喜びで始まるこの諸真実は、光が太陽を示すように直感的に：叡智ある御方、寛大なる御

方、慈悲深き御方、糧を授ける御方、生かしかつ生きる御方といった御名を示す。けれどもアッラーのみが最も良いものの例え方をされる。

数多くのものの上に成長するこのすべての壮大な動きは、その唯一性を明快にする輝かしい証拠である。崇高なる「唯一なる御一人」にそれらが帰さない場合、無数の不可能が生まれたことだろう。